

2023（令和5）年度前期  
教学改善のための授業評価アンケート  
報告書

大阪成蹊大学

調査概要

授業評価アンケート結果

集計データ

調査票

## 調査概要

### 1) 調査目的

授業評価アンケートは、本学教学改革の一環として、授業改善を第一の目的として実施するものである。個々の授業に対して学生の率直な意見を聴取・理解し、学生にとって分かり易く、学修成果の得易い教育活動が行えるよう、授業の充実・改善、授業法の開発に資することを目的とする。受講者数が10名未満の授業を除き、ほぼすべての授業科目を対象としている。また、ピアノ科目にはピアノ科目用の授業アンケートを実施している。

### 2) 調査項目

#### <一般科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部、学年、性別、学生区分）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（15問）
- ・「教育環境」に関する項目（2問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

#### <ピアノ科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（10問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

### 3) 調査対象

本学の2023（R5）年度前期開講の全授業（※ピアノ科目以外の10名未満のクラス、及び、13週目までに終了するクラスについては、担当教員の任意で実施）、及びこれらの授業を履修している全学生

### 4) 調査方法

質問紙（マークシート）とWEBアンケートシステムを併用して調査を実施した。

質問紙を用いた実施手順は、下記の通り。

- ①各授業の終了前15分程度を使用する。
- ②質問紙の配付・回収は、教員と、教員が指名した学生2名が協力して行う。
- ③回答時間は、授業時間終了2分前までを目安とする。
- ④質問紙の配付後は、教員は教室内で待機し、質問紙の回収を確認する。
- ⑤指名学生は質問紙を回収後、回収用封筒に封入・封緘し、教務課に提出する。

### 5) 調査期間

2023（R5）年7月3日（月）、7月8日（土）～7月21日（月）（※原則、授業の13週目に実施）

## 6) 調査実施率と有効回答率

### ◆科目ベース

		対象科目数	実施科目数	調査実施率
配当 所属	経営学部	159科目	159科目	100.0%
	芸術学部	119科目	119科目	100.0%
	教育学部	251科目	251科目	100.0%
	国際観光学部	19科目	19科目	100.0%
	データサイエンス学部	5科目	5科目	100.0%
	看護学部	3科目	3科目	100.0%
	大学共通	317科目	317科目	100.0%
	教職課程	5科目	5科目	100.0%
	博物館学芸員	4科目	4科目	100.0%
	司書教諭	3科目	3科目	100.0%
調査 方法	対面調査	800科目	800科目	100.0%
	遠隔調査	85科目	85科目	100.0%
2023(R5)前期 計		885科目	885科目	100.0%

### ◆学生ベース

		延べ履修者数	延べ有効回答者数	有効回答率
所属 学部	経営学部	11,469名	9,004名	78.5%
	芸術学部	7,345名	6,299名	85.8%
	教育学部	10,087名	8,142名	80.7%
	国際観光学部	1,537名	1,163名	75.7%
	データサイエンス学部	737名	598名	81.1%
	看護学部	1,071名	848名	79.2%
	(所属学部不明、その他、端数調整)	579名	439名	
調査 方法	対面調査	25,218名	20,694名	82.1%
	遠隔調査	7,607名	5,799名	76.2%
2023(R5)前期 計		32,825名	26,493名	80.7%

※「延べ履修者数」は、学生1名が複数の調査対象科目に履修登録している場合、履修科目ごとに1名としてカウントした。

※「延べ有効回答者数」は、学生1名が調査期間中に複数の調査対象科目に出席し、且つ、アンケート用紙に回答した場合、回答した科目ごとに1名としてカウントした。ただし、アンケート用紙に1問も回答がない（回答者の基本属性を含む。自由記述は除く）ケースについては、無効回答として集計対象から除外した。

## 7) 調査結果の活用

アンケート結果はプロジェクトチームによって分析され、教学改革会議において報告される。また、授業ごとのアンケート結果は担当の教員に戻され、各教員はその結果を受けて授業改善計画書を作成し、次期授業の中で改善計画を実践していく。

本学では、教学改革会議のプロジェクトチームが中心となり、各学部・学科、FD委員会、教務係などと連携しながら、授業評価アンケートの結果を授業改善へとつなげていく。

## 授業評価アンケート結果（一般科目）

### ◆経年比較

※30問中「1」または「5」の解答が29以上のケースは除いている。

※履修者数10名未満の科目は除いている。

	2022年度前期		2022年度後期		2023年度前期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	4.06	1.18	3.90	1.22	4.03	1.18
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.15	0.97	4.15	0.94	4.15	0.97
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	1.97	1.19	2.05	1.23	1.93	1.18
I-4. この授業の内容は私にとって	3.44	0.77	3.45	0.76	3.46	0.77
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.63	1.15	2.67	1.18	2.70	1.17
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.08	0.99	4.08	0.96	4.13	0.96
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.05	0.99	4.07	0.97	4.10	0.96
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.10	0.96	4.11	0.95	4.14	0.94
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.12	0.94	4.14	0.92	4.16	0.92
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.14	0.96	4.16	0.93	4.18	0.94
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.15	0.95	4.18	0.91	4.21	0.91
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.22	0.87	4.24	0.85	4.25	0.85
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.13	0.94	4.15	0.92	4.18	0.91
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.15	0.92	4.16	0.90	4.20	0.90
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.27	0.86	4.28	0.84	4.29	0.84
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.33	0.82	4.33	0.81	4.36	0.79
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.16	0.90	4.16	0.89	4.20	0.88
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.15	0.91	4.15	0.89	4.19	0.88
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.16	0.91	4.18	0.89	4.20	0.88
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.24	0.90	4.27	0.88	4.29	0.88
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.29	0.89	4.30	0.86	4.33	0.87

(該当者のみ回答) Ⅱ-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.30	0.89	4.33	0.84	4.35	0.85
<b>Ⅲ. 授業を通して得られたこと</b>						
Ⅲ-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.20	0.84	4.22	0.83	4.23	0.83
Ⅲ-2. 学習力や思考力が高まった。	4.16	0.86	4.19	0.85	4.19	0.86
Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.12	0.90	4.16	0.88	4.16	0.89
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.15	0.88	4.18	0.86	4.19	0.88
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	3.97	1.00	4.01	0.99	4.01	1.01
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	3.96	0.90	4.03	0.89	4.04	0.89
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.23	0.86	4.23	0.85	4.25	0.85
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.22	0.89	4.22	0.88	4.25	0.88

直近2期と比較して、各質問項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化はなく、類似した傾向であることがうかがえる。調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」は、2022年後期の時点ですべての項目が4点台となっていたが、2023年前期は少しずつではあるがさらに平均値が上がっており、教員が授業内容を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

◆平均（実施形態別）

	対面		遠隔		全体	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.97	1.17	4.30	1.15	4.03	1.18
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.19	0.96	3.98	0.99	4.15	0.97
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	1.92	1.20	2.00	1.09	1.93	1.18
I-4. この授業の内容は私にとって	3.45	0.77	3.54	0.74	3.46	0.77
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.68	1.18	2.79	1.10	2.70	1.17
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.16	0.94	3.96	1.00	4.13	0.96
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.15	0.95	3.87	1.01	4.10	0.96
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.19	0.92	3.95	1.00	4.14	0.94
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.20	0.91	3.98	0.98	4.16	0.92
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.25	0.89	3.81	1.06	4.18	0.94
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.25	0.88	3.98	1.03	4.21	0.91
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.28	0.83	4.15	0.90	4.25	0.85
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.21	0.89	4.04	0.99	4.18	0.91
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.23	0.88	4.06	0.97	4.20	0.90
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.33	0.82	4.14	0.92	4.29	0.84
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.38	0.78	4.29	0.85	4.36	0.79
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.28	0.84	3.82	0.99	4.20	0.88
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.27	0.84	3.83	0.98	4.19	0.88
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.25	0.86	4.00	0.94	4.20	0.88
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。			4.36	0.87	4.29	0.88
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.38	0.83			4.33	0.87
(該当者のみ回答) II-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.40	0.81			4.35	0.85
<b>III. 授業を通して得られたこと</b>						
III-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.25	0.82	4.12	0.88	4.23	0.83
III-2. 学習力や思考力が高まった。	4.22	0.85	4.06	0.93	4.19	0.86

Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.19	0.87	4.02	0.97	4.16	0.89
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.21	0.86	4.06	0.95	4.19	0.88
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.11	0.95	3.57	1.15	4.01	1.01
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.08	0.88	3.87	0.93	4.04	0.89
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.28	0.83	4.13	0.94	4.25	0.85
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.27	0.86	4.12	0.95	4.25	0.88

2022年度後期と傾向は変わらない。学生がより熱心に取り組むのは対面授業である。また、調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」のいずれについても、対面のほうがよい結果となった。対面のほうが授業の充実はしやすく、学生にとっても成果が感じられやすいと言える。ただし、学生の授業への出席状況は、遠隔のほうが良い傾向にある。

なお、「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」について、2022年度後期のデータと比較した場合、対面ではほぼ平均値に変化が見られないが、遠隔では比較的大きく平均値があがっており、遠隔授業において教員が授業改善を進め、その成果が学生にも感じられる形で表れつつあることがわかる。

### ◆条件ごとの「授業運営」尺度・「学修達成」尺度の得点の違い

アンケート項目のうちⅡ-①-1からⅡ-①-15までの平均を「授業運営」尺度とする。これは、教員の授業に対する工夫や熱意などを示す指標である。また、Ⅲ-1からⅢ-8までの平均を「学修達成」尺度とする。これは、学生が専門知識や思考力、コミュニケーション能力などを身につけたかどうかを示す指標である。

#### 学部別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
経営	4.06	0.78	8657	4.01	0.80	8843
芸術	4.31	0.67	6017	4.29	0.67	6144
教育	4.31	0.77	7370	4.30	0.78	7503
国際観光	4.15	0.81	1108	4.08	0.88	1137
データサイエンス	3.99	0.77	580	3.83	0.78	587
看護	4.12	0.79	815	4.04	0.88	836
全体	4.20	0.76	24547	4.16	0.78	25050

#### 授業形態別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
講義	4.08	0.79	12612	4.05	0.81	13002
演習	4.31	0.72	11766	4.26	0.74	11868
実技実験実習	4.73	0.53	569	4.70	0.53	580
合計	4.21	0.77	24947	4.17	0.78	25450

#### 授業規模別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
小 (10～19)	4.38	0.67	2123	4.32	0.71	2129
中 (20～39)	4.34	0.72	8620	4.30	0.73	8692
大 (40～79)	4.21	0.76	5939	4.18	0.78	6007
特大 (80～)	4.01	0.79	8265	3.98	0.82	8622
合計	4.21	0.77	24947	4.17	0.78	25450

## 学年別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
1年生	4.24	0.76	9828	4.17	0.79	9998
2年生	4.14	0.76	6592	4.13	0.78	6712
3年生	4.23	0.74	5498	4.21	0.76	5666
4年生	4.16	0.80	2555	4.15	0.81	2594
5年生以上	4.40	0.64	53	4.30	0.67	54
合計	4.18	0.77	20347	4.17	0.78	25024

## 性別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
男性	4.14	0.80	9126	4.11	0.81	9271
女性	4.24	0.74	15035	4.20	0.77	15363
その他 /答えたくない	4.09	0.82	277	4.03	0.81	300
合計	4.20	0.76	24438	4.17	0.78	24934

## 教員区分別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
専任	4.22	0.75	15808	4.19	0.77	15933
非常勤	4.17	0.79	9139	4.12	0.81	9517
合計	4.21	0.77	24947	4.17	0.78	25450

学部別では、「芸術」と「教育」が高く、「データサイエンス」がやや低かった。授業形態では、「実技・実験・実習」「演習」「講義」の順で両指標の値が高かった。授業規模では、履修者数が少ない授業ほど、両指標の値が高かった。学年別では、例年は4年生・5年生以上で両指標の値が高くなる傾向が見られるが、今年度は4年生で値が低くなる傾向が見られた。性別に関しては女性の方が、教員区分については専任の方が、両指標の値が高かった。

## ◆相関分析

### 相関（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.27	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.07	0.18	—				
I-4 授業の難易度	-0.02	-0.06	0.11	—			
I-5 シラバス活用	0.06	0.17	0.24	0.01	—		
授業運営	0.08	0.40	0.10	-0.21	0.17	—	
学修達成	0.09	0.43	0.14	-0.20	0.20	0.84	—

### 相関（対面）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.26	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.07	0.19	—				
I-4 授業の難易度	-0.02	-0.06	0.10	—			
I-5 シラバス活用	0.06	0.17	0.23	0.01	—		
授業運営	0.09	0.38	0.10	-0.20	0.16	—	
学修達成	0.10	0.41	0.14	-0.20	0.19	0.85	—

### 相関（遠隔）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.34	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.06	0.17	—				
I-4 授業の難易度	-0.08	-0.05	0.12	—			
I-5 シラバス活用	0.05	0.20	0.26	0.01	—		
授業運営	0.13	0.46	0.11	-0.22	0.23	—	
学修達成	0.15	0.49	0.14	-0.21	0.25	0.82	—

相関係数が0.20以上の箇所に網掛けをした。傾向は例年と同様である。「授業運営」と「学修達成」の相関は非常に高く、「熱心さ」と「授業運営」「学修達成」の相関も高い。よい授業運営と学生の熱心な取り組みの結果、学修達成も得られていると考えられる。遠隔では「シラバスの活用」と「授業運営」「学修達成」との相関が高く、遠隔授業においては、効果的にシラバスを活用することが学びへの意欲や学修達成感の向上につながっていると考えられる。また、「難易度」と「授業運営」や「学修達成」との間に負の相関がみられる。授業内容が難しいと感じるほど教員の授業運営に対する評価が下がり、学修達成感を得られにくい。学生の理解度に合わせた授業方法の工夫、適切なフィードバックやフォローが求められるだろう。

## 授業評価アンケート結果（ピアノ科目）

### ◆経年比較

※23問中「1」または「5」の解答が22以上のケースは除いている。

	2022年度前期		2022年度後期		2023年度前期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	4.20	1.06	4.24	0.98	4.16	1.05
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.57	0.93	4.55	0.79	4.47	1.05
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	2.67	1.24	2.50	1.18	2.47	1.20
I-4. この授業の内容は私にとって	3.34	0.58	3.43	0.67	3.30	0.60
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.57	1.13	2.55	1.18	2.40	1.13
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.64	0.68	4.57	0.73	4.67	0.66
II-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.67	0.64	4.60	0.68	4.67	0.68
II-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.65	0.63	4.59	0.64	4.60	0.72
II-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.68	0.61	4.63	0.63	4.64	0.65
II-5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.72	0.58	4.67	0.61	4.70	0.64
II-6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.66	0.64	4.58	0.66	4.64	0.67
II-7. 教員による実演の説明は分かりやすかった。	4.68	0.61	4.64	0.64	4.66	0.70
II-8. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.73	0.60	4.70	0.55	4.72	0.62
(該当者のみ回答) II-9. 対面授業では適切な教育設備(空調など)が整っていた。	4.66	0.64	4.62	0.62	4.67	0.66
(該当者のみ回答) II-10. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.55	0.77	4.58	0.65	4.61	0.70
<b>III. 授業を通して得られたこと</b>						
III-1. ピアノ技能が身についた。	4.68	0.59	4.65	0.58	4.68	0.58
III-2. 楽曲の理解力が高まった。	4.60	0.66	4.57	0.61	4.58	0.68
III-3. 音楽に関する知的好奇心や探究心が高まった。	4.51	0.72	4.48	0.69	4.44	0.79
III-4. 音楽に関する考え方や社会的視野が広がった。	4.43	0.76	4.41	0.75	4.34	0.84
III-5. 表現する力が高まった。	4.53	0.71	4.48	0.69	4.51	0.71
III-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.30	0.82	4.31	0.77	4.30	0.83
III-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.65	0.62	4.62	0.61	4.63	0.71
III-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.71	0.61	4.67	0.60	4.68	0.67

直近2期と比較して、各質問項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化はなく、類似した傾向である。十分に平均値は高いが、学生の「熱心さ」にややばらつきが出てきているかもしれない。とはいえ、調査項目Ⅱ・Ⅲはすべての項目が4点台であり、教員が授業内を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

## ◆相関分析

### 相関（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.15	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.08	0.20	—				
I-4 授業の難易度	-0.14	-0.07	-0.09	—			
I-5 シラバス活用	0.01	0.14	0.21	-0.05	—		
授業運営	-0.07	0.13	0.06	-0.06	0.07	—	
学修達成	0.06	0.18	0.19	-0.16	0.14	0.73	—

相関係数が0.2以上の箇所に関係を網掛をした。「授業運営」と「学修達成」の相関が非常に高いこと、「熱心さ」と「授業運営」「学修達成」の相関が見られることは、一般科目と同じである。よい授業運営と学生の授業への熱心で主体的な参加が、学習達成につながっていると考えられる。

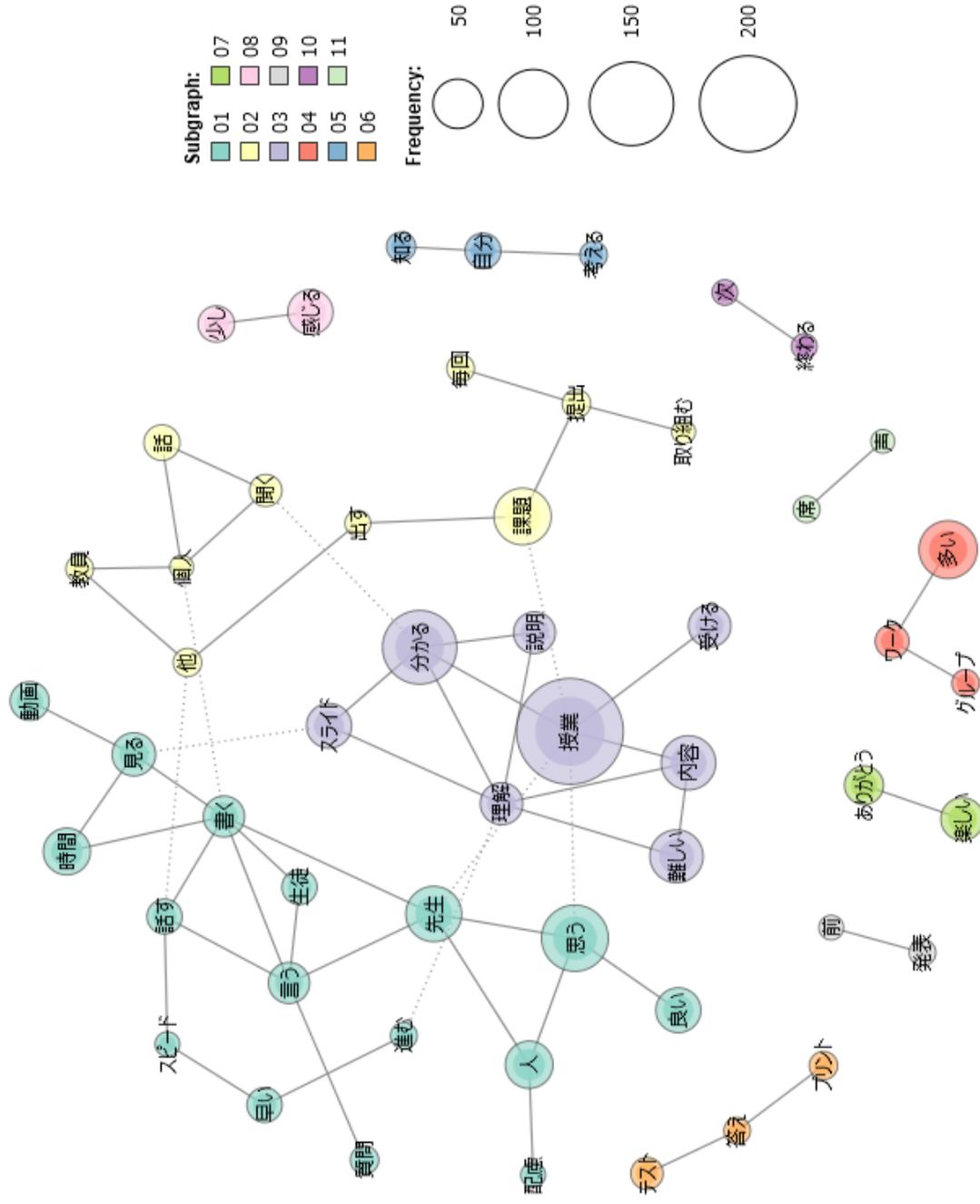
「学修達成」については、相関係数が0.2より小さいものについても、出席以外（I-2～I-5）はすべて1%水準で有意である。学生が熱心に取り組み、授業外の学習時間が長く、授業の難易度が低いと感じており、シラバスを活用しているほど、学修の成果が学生に感じられやすくなっている。







【下位群の共起ネットワーク】



・「分かる」に着目すると、上位群・中位群とは異なり、否定的な記述が半数ほどを占めていた。内容や課題が「難しい」といったコメントも多く見られた。  
 ・時間配分に問題がある（次の授業に間に合わない）、書く時間が早い、話すスピードや進むスピードが早いといった指摘も見られた。  
 ・「多い」に関連している「グループワーク」については、多いことが肯定的に捉えられていたが、ほかのもの（「ワーク」や難しい言葉・授業内容など）については多いことを否定的に捉えている発言が多かった。  
 ※実施時に、アンケート内容について「誰が書いたかわかる」と発言していましたが、そのようなことを発言することの無いようお願いいたします。

# 教学改善のための授業評価アンケート

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

＜学籍番号＞（二重枠線内に学籍番号（数字7桁）を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。）

①	①	①	①	①	①	①	← 0
②	②	②	②	②	②	②	← 1
	③	③	③	③	③	③	← 2
	④	④	④	④	④	④	← 3
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	← 4
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	← 5
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	← 6
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	← 7
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	← 8
							← 9

【記入上の注意】

- ① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。
- ② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- ③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

＜良い例＞ ●      ＜悪い例＞ ○   ●   ●   ●   ●

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜    限

大学	① 経営学部    ② 芸術学部    ③ 教育学部    ④ 国際観光学部    ⑤ データサイエンス学部    ⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科
短大	⑧ 生活デザイン学科    ⑨ 調理・製菓学科 調理コース    ⑩ 調理・製菓学科 製菓コース    ⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース ⑫ 栄養学科    ⑬ 幼児教育学科    ⑭ 観光学科    ⑮ グローバルコミュニケーション学科    ⑯ 経営会計学科
学年	① 1年生    ② 2年生    ③ 3年生    ④ 4年生    ⑤ 5年生以上
性別	① 男性    ② 女性    ③ その他（または答えたくない）    学生区分    ① 一般学生    ② 留学生

## I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席（参加）状況	① 4回以上欠席（4回以上不参加）    ② 3回欠席（3回不参加）    ③ 2回欠席（2回不参加） ④ 1回欠席（1回不参加）    ⑤ 全回出席（全回参加）
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない    ② あまりそう思わない    ③ どちらともいえない ④ ややそう思う    ⑤ そう思う
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）	① 1時間未満    ② 1～2時間未満    ③ 2～3時間未満 ④ 3～4時間未満    ⑤ 4時間以上
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた    ② やや簡単だった    ③ 適切だった ④ やや難しかった    ⑤ 難しすぎた
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった    ② あまり活用しなかった    ③ どちらともいえない ④ 活用した    ⑤ とても活用した

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

## II-① 授業内容と授業の進め方

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	①	②	③	④	⑤

～裏面も回答してください～

II-① 授業内容と授業の進め方（続き）

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
5. 教員は学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促していた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（対応・意見・評価など）をしていた。	①	②	③	④	⑤
7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
9-1.（講義・演習科目の場合）板書やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。 9-2.（実技・実験・実習科目の場合）教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	①	②	③	④	⑤
11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	①	②	③	④	⑤
12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	①	②	③	④	⑤
13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	①	②	③	④	⑤
14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	①	②	③	④	⑤
15. （該当者のみ回答） 遠隔授業では教員は授業ツール（Classroom・Meet・Zoomなど）を適切に活用していた。	①	②	③	④	⑤

II-② 教育環境

1. （該当者のみ回答） 対面授業では適切なICT環境（Wi-Fi、PCなど）が整っていた。	①	②	③	④	⑤
2. （該当者のみ回答） 対面授業では適切な教室環境（空調、プロジェクター、机の配置など）が整っていた。	①	②	③	④	⑤

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

III 授業を通して得られたこと

	そ う 思 わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	①	②	③	④	⑤
2. 学習力や思考力が高まった。	①	②	③	④	⑤
3. 知的好奇心や探究心が高まった。	①	②	③	④	⑤
4. 考え方や社会的視野が広がった。	①	②	③	④	⑤
5. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。	①	②	③	④	⑤
6. シラバスに明記されている本授業における到達目標（知識、技能、態度等）を達成できた。	①	②	③	④	⑤
7. これから生きていくうえで役立つと思う。	①	②	③	④	⑤
8. 全体として、この授業を受けて満足した。	①	②	③	④	⑤

IV 自由記述（この授業の良かった点、悪かった点、意見、改善点等を自由にお書きください。なお、書かれた内容は授業改善に活用します。）

-----

-----

-----

# 教学改善のための授業評価アンケート (ピアノ科目)

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

<学籍番号> (二重枠線内に学籍番号(数字7桁)を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。)

①	①	①	①	①	①	①	←0
②	②	②	②	②	②	②	←1
	③	③	③	③	③	③	←2
	④	④	④	④	④	④	←3
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	←4
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	←5
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	←6
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	←7
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	←8
							←9

[記入上の注意]

① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。

② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。

③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

◀良い例▶ ●      ◀悪い例▶ ○   ●   ●   ●   ●

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜    限

大学	① 経営学部	② 芸術学部	③ 教育学部	④ 国際観光学部	⑤ データサイエンス学部	⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科					
短大	⑧ 生活デザイン学科	⑨ 調理・製菓学科 調理コース	⑩ 調理・製菓学科 製菓コース	⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース	⑫ 栄養学科	⑬ 幼児教育学科
	⑭ 観光学科	⑮ グローバルコミュニケーション学科	⑯ 経営会計学科			

## I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席(参加)状況	① 4回以上欠席 (4回以上不参加)	② 3回欠席 (3回不参加)	③ 2回欠席 (2回不参加)
	④ 1回欠席 (1回不参加)	⑤ 全回出席 (全回参加)	
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない	② あまりそう思わない	③ どちらともいえない
	④ ややそう思う	⑤ そう思う	
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間(授業時間を除く)	① 1時間未満	② 1~2時間未満	③ 2~3時間未満
	④ 3~4時間未満	⑤ 4時間以上	
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた	② やや簡単だった	③ 適切だった
	④ やや難しかった	⑤ 難しすぎた	
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった	② あまり活用しなかった	③ どちらともいえない
	④ 活用した	⑤ とても活用した	

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

## II 授業内容と授業の進め方

	そう 思わ ない	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	①	②	③	④	⑤
5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤

~裏面も回答してください~

